グレートアース新聞

2025年7月
発行者：GEを大切に思う人たち
発行元：愛知県新城市黄柳野字池田663-1
第23号

2025年度、1学期を大放出！

2025年度が始まりました。授業のGEは31名でスタート。自然の中で思い切り遊び、命を学び、心を寄せる時間を大切にしてきた時間でした。今年度は半数が3年生であり、全員がエネルギッシュです。人を思い、優しくも力強いメンバー。1.2年生をぐいぐい引っ張ってくれています。2年生は一見すると引っ込み思案かと思わせますが、1年を経て、油が乗ってきています。楽しい！が溢れています。そして1年生。2.3年生のパワーに押され気味なところもありますが、やってみたい！という思いが伝わってきます。徐々に個性が出てきましたが、まだまだ本性を出していないようなので、これからが楽しみです。

心いっぱい、体いっぱい遊ぶ

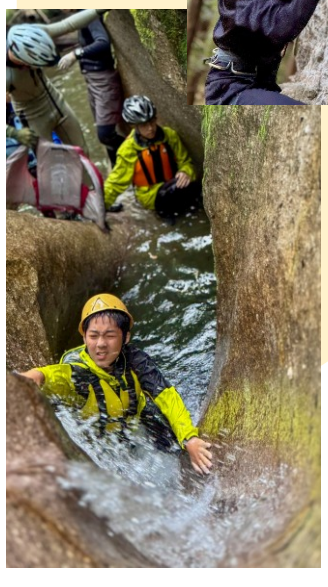
GEで一番大切にしていることは「本気で遊ぶ」！こと。自らの心と体そのままに自然の中に飛び込んで感じる。そこで見つけたものは本物であり、本当に大切なことに気づける感性が育っていくだろう（成瀬陽一）

１学期は「クライミング」「川遊び」「沢登り」と岩と水と一体になる活動が満載。クライミングが初めての１年生はドキドキが顔に出ていましたが、2.3年生の積極的な姿に影響を受け、一歩踏み出します。必死で登る生徒も多かったですが、登れた時の景色は今までの違う世界との出会いでもあったようです。

２年・小野寺：GEの醍醐味であるフィールドワークだけど、今まで知らなかったことだらけだし、恐怖で足が震えることもあったけど、成長してるんだって実感できて、思わず叫びたくなるような自然たちが好きになりました。

沢登りは「沢ヤ成瀬」の本領発揮です。新城市は美しい造形をした沢があります。決して難しい沢ではありませんが、地球の魅力たっぷりです。そんなところに住んでいる高校生は幸せ者です。成瀬さんは言います「これが沢登りだ！」と。それは難しさを追及するのではなく。地球の胎動を感じ、水にまみれ、岩と対話し、思い切り地球の一部になることを伝えたかったのだと思います。何かを攻略したり、制覇したり、そういうことをするために成瀬さんは沢登りをしているわけではありません。地球の魅力を感じたい、素晴らしい世界に身を置きたい。そんな成瀬さんの思いがたくさん詰まった沢登りでした。高校生たちは笑顔満載。時にはピリッと緊張して登り、沢登りの一旦を感じたのではないでしょうか。

３年・谷川：GEをやって気づいたことは実際にやらないと気づかないということ。クライミングが思ったより難しい。イヌワシやウミガメも現場に行かないと何が問題かわからない。実際に経験する体験することが大切だと思った。



３年・竹谷：鳥について学んだ時、色んな種類の鳥の本（タカっぽい）の写真を見て、こんな鶏冠みたいな羽？の生え方してるんだなと思って面白かった。

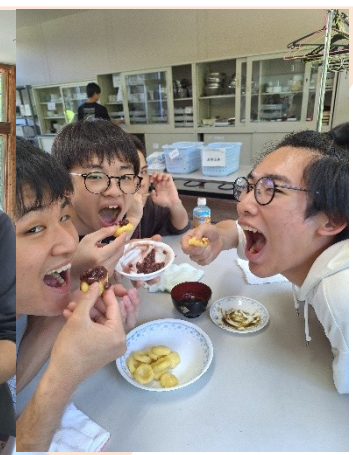
３年・高橋：GEで大切だと感じたことは、「心」⇒やっぱりどれだけすごいものを目にしても、心が動かないとダメだなって思った。「体」⇒やっぱり体を動かして、体で感じることは、心をより豊かにすることや！

命と出会う

新城市は大きな岩壁が多くあります。それを利用して**子育てをするのがハヤブサ**です。毎年5月に雛が誕生しますが、彼らに会いに出発です。しかし!今年は既に巣立ち済。残念と思っていたら、大空を飛ぶ大きめの鳥の姿が！「ハチクマ」という猛禽類です。その姿に魅了される一同。カッコイイ！あんな風に飛べたらなぁ。と心の声が聞こえてくるようでした

コノハズクは新城の鳥です。毎年夏になると渡ってきて子育てをします。近年の環境破壊で彼らの生息環境も大きく変わっていますが、新城の山では彼らの声が聞こえます。日中に博物館でコノハズクと新城の自然について学び、夜はコノハズクの鳴き声探しです。到着してから1時間ほどは声が聞こえず、ちょっとガッカリ…しかし、ムササビ・ヨタカなど他の夜の生き物の声が聞こえました。夜の世界を楽しみます。そしてその時きました。最後のポイントに移動して静かにすること15分。遠くから「ブッポーソー」と聞こえたのです。声を出して喜びたい気持ちを抑え、**彼らの命の声に聞き入りました。**

何を大切にしたいのか…、自分の心に問いかけてみよう。五感をフル稼働させてみて！



生き様

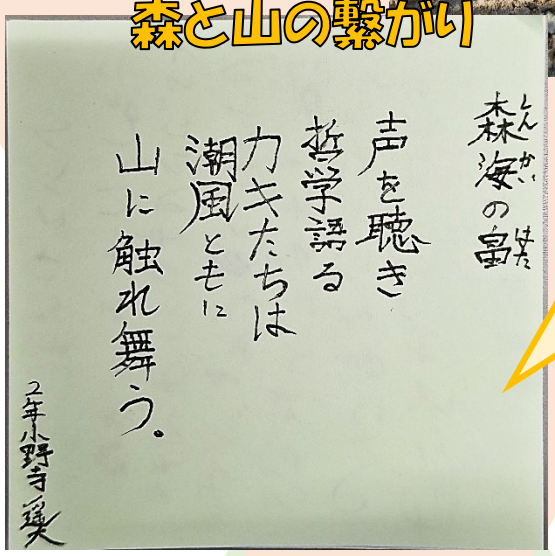
人の生き様から学ぶ

カキ養殖の漁師さんでありながら、森に木を植える活動している方から学びました。なぜ、漁師が木を植え始めたのか…それは高度経済成長をキッカケに失われた海にショックを受けたことでした。
その出来事があり、山と海の繋がりを深く感じ、自ら行動していくことを決め今もなお活動しています。
そして、その思いの原点には海を愛する心がありました。高校生たちはその漁師さんの愛と信念を感じる時間となっていました。

１年・鈴木：「海は帰ってくる」という言葉が心に響いた。

１年・佐藤：原因を調査し、解決策を出して実行し、自然を変えることができる人間の強さを感じた。

森と山の繋がり



２年・熊谷：カキじいさんの魅力、じいさんの思いは芯があると思った。木を使って漁をする場面もあったが自然の物で漁をするってところが心に残った。工夫できることってあるんだなと。それを孫が引き継いでいることが印象に残った。

アイヌ文化から学ぶ

アイヌ文化を胃袋で感じる

３年・小澤：アイヌは同じ人間なのに差別されたり「自分だったら」と考えたら心が痛くなった。

3 年生が修学旅行で北海道へ行くこともあり、今年度は「アイヌ民族」について学びました。まずは自分たちでアイヌあれこれを調べてみます。そこから見えてきたのは、アイヌの方々はその土地を生かし、その土地の命と共に生きている生活があったこと。現代文化が消費社会になっている中で、自らも自然の循環の中で生きるアイヌの生き方を学び、高校生たちなりに、自分の生き方を振り返る機会になっていたようです。
そして、もう一つ大切なテーマとなったのが、「差別や偏見」です。アイヌの方々が歴史的に差別され、命を蔑ろにされてきた歴史を学び、同じ過ちを繰り返さないために…皆で考える時間を設けました。全ての命が平等に、そして輝ける未来のために学びます。2 学期も大切にしたいテーマです。

３年・谷川：アイヌのことは修学旅行も含めて今までわからなかった事実を知った。

食べる

美味しいものを食べると人は幸せになる。GE で食いしん坊は称えられます。食欲は人間の 3 大欲求の 1 つでその本能が育っていることは生きていく力になります。
ということで、GE では結構食べます。春：山菜・ハマグリ、夏：ギョウジャニンニク、アイヌのお団子（シト）、新ジャガイモ、ニンニク、梅…
ジャガイモとニンニクは GE 農園と題して地球の恵みで育てています。「水・土・太陽」の力をもらって作ります。ここに今年度は命の恵み（生き物の落し物）を入れ、命の循環を感じられる畑に進化しました。命そのものから生まれる命を食べる。地球の一部になる時間です。「おいしい！」という思いと地球の力を実感する時間です。

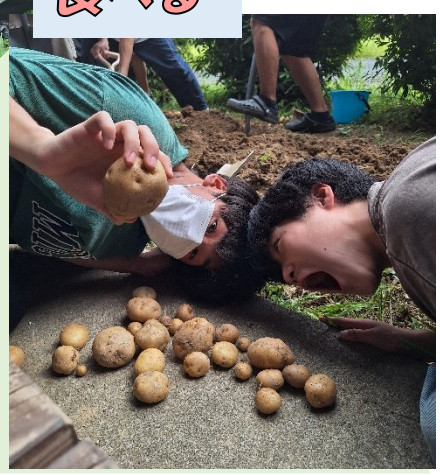
新ジャガとれた！

ニンニクもとれた！

春の山菜

ハマグリを食す

食べる

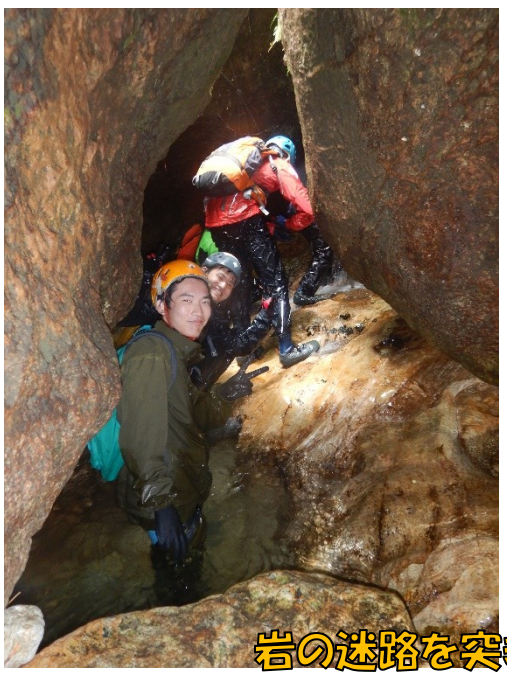


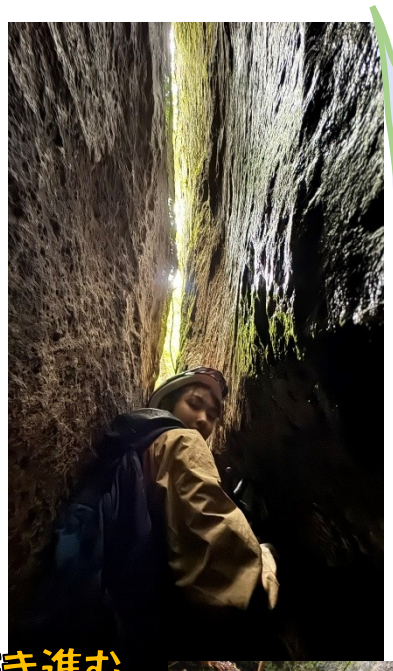
沢登り＆ハマグリ探しキャンプ　2025.24-25

今年度一発目の宿泊 GE。希望者 14 名で実施です。初日は「沢登り」です。黄柳野高校の地元、新城市の奥（乳岩）にて実施です。この沢は授業の GE でも行くことがありますが、今回は 1 日たっぷり時間があるので、
1 つ 1 つに時間をかけ、いつも覗かずに進んでしまう場所にも進んでみました。
すると…「あれ？こんなところがあったのか！」
「ここの景色はこんな感じだったけ？」
「何これ！？書ける石がある！」
と何回も登っている沢だけれど、新しい発見が次々と登場。自分たちの知っている世界がいかにちっぽけかを実感します。初体験の生徒にとっては全てがドキドキ。「この岩を超えていくのか…」「ここに入るのか」と怖さと先を見てみたい思いで心が揺れます。
そして、授業のゴールである綺麗な淵に到着。この日は気温 20 度ほどでしたが、水を目の前にしたメンバーがそのままにするわけがありません。「寒い！」と言いつつあっという間にずぶ濡れです。
ここで終わりと思いきや…成瀬さんは更に奥を目指します。メンバー全員が初めての場所。ワクワクが伝わってきます。開けた場所から大岩をくぐり出た場所は地上から 6m ほど亀裂が入った、縦の空洞。
なんて幻想的な世界でしょう。
そして、奥にはまだ誰も入ったことがないであろう、洞窟のような場所が。
そこを放ってはおけません。ヘッドライトをつけて進むメンバー。結局、行き止まりでしたが、水は流れ出ている。水は地中を通り、私たちのもとに姿を見せてくれているのです。
ドキドキとワクワクが入り混じる沢登りでした。
沢登りの原点は未知の世界との出会い。地元の小さな沢ですが、自然は同じ姿をずっと留めているわけではなく、いつでも発見があります。
そして、知らない世界があります。
自然は私たちの想像をはるかに超えた世界があります。その発見が面白い。
そんな一旦が今日の沢登りにあったのではないでしょうか。

前原七音（1 年）：
沢登りは冷たくて、怖くて、寒くて…でも最後まで行けて良かったです。ハマグリは普段食べているものを自分で採って食べるとおいしく感じる。ハマグリ採れて良かったです。

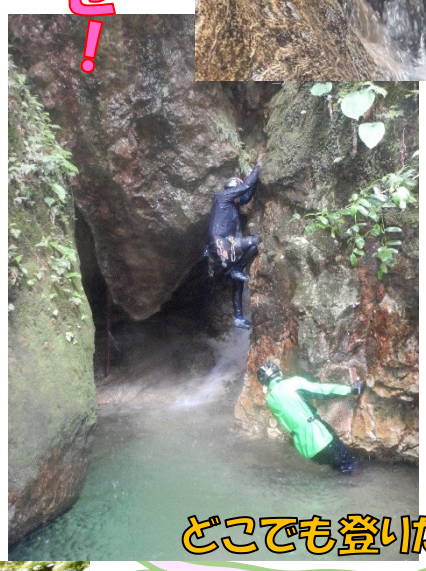
感覚を研ぎ澄ませ！





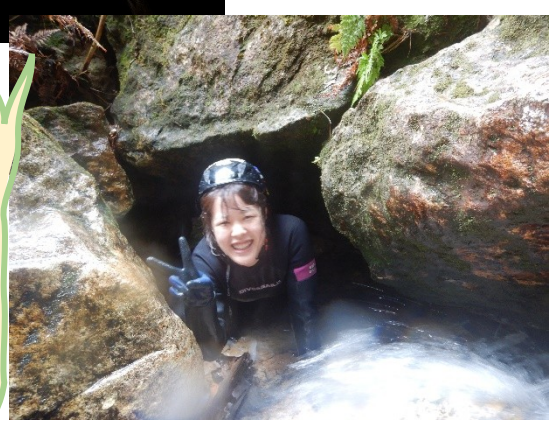
岩の迷路を突き進む

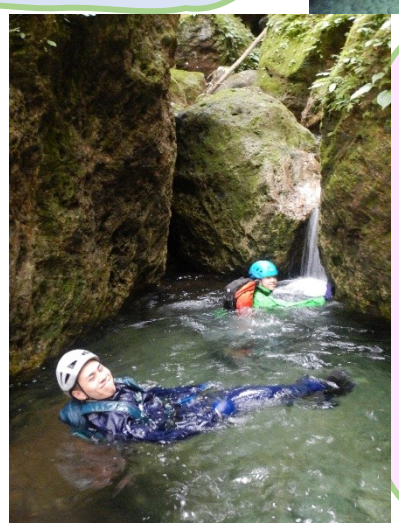
尾瀬湊（２年）：
沢は久しぶりで不安もあったけど、行けて良かった。今まで行ったことある場所だったけど、文字が書ける石があって、まだ知らないことあるじゃんって思った。行ったことないところまで行けてキレイじゃんって思った。
ハマグリは初めてで「どうやって採るんだろう」って思っていたけど、普通に手を入れてやっていて原始的だなと思った。後半は陸に行くとハマグリあるかなと思って砂遊びしていたが、ハマグリが出てきて、ここでも出てくるんだなって思った。



どこでも登りたがる人

伊藤留光王（３年）：
沢は最後まで行けなかったけど、亀裂みたいなところまで行って、あそこが今回、一番キレイで心に残っている。
ハマグリは１年の時より減っている気がして、２年の時に「今年少ない」って言っていて今年も同じこと話していたな。減っているのか気になる。ハマグリはめっちゃ美味しかった。

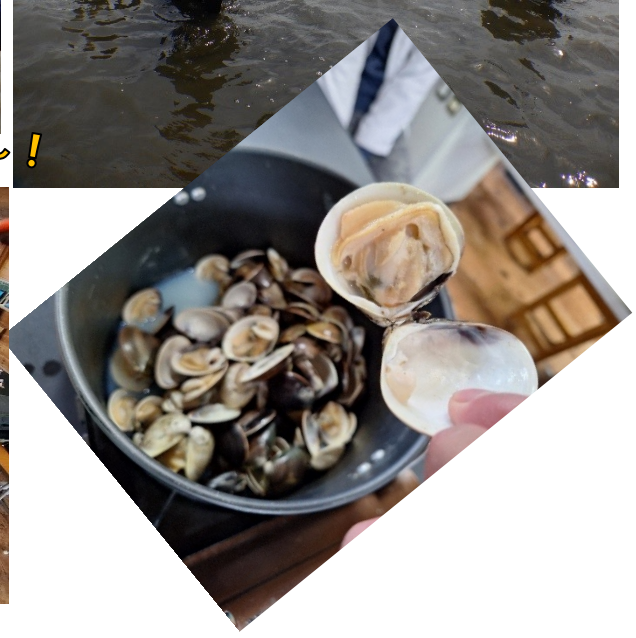




宇佐美温人（３年）：
前半は何回か行ったことがある場所で、変わってないようで変わっているところがあって、自然ってちょっとずつ変わっていくんだなって思った。ハマグリは今年も同じように採れて嬉しかった。ヒラメが小っちゃくて裏を見たら骨や内臓が見えて、すげーと思って、実際に見つけて、面白くて感動した。

ハマグリ採れた～！

ハマグリポイントへ



ハマグリは黄柳川も支流とさする豊川の河口で採りました。 ハマグリ探し初体験の生徒が感想で言いました。
「ハマグリ探しをどうやってするのかなぁ」
「と、思ったらひたすら手で探るでした。原始的なんだなぁと思いました」と。
そう、グレートアースでは自ら五感を研ぎ澄ましハマグリを探します。手で掘る、地中を探る、違和感を感じる、たくさん居そうところを想像する…道具を使った探し方もありますが、まずはそのままの姿で探す経験をした高校生たち。自ら五感がどんどん研ぎ澄まされていくメンバーは次第にハマグリ発見率をあげていきます。
「ここに居そう」
「ん！？この感覚はここか！？」
「こうしたら見つかるかな？」など、生きるための力が発揮されます。人の力は、普段の生活では発揮されていない力がたくさんあると思います。今回の経験を通して、彼らの眠っていた力が少し目覚めたかな。とれたハマグリは当然、おいしくいただきました！おいし～！

海の姿から地球を見る⇒命・環境・未来を考える、そして屋久島へ・・・

7 月初めに屋久島へウミガメに会いに行くメンバーがいました。ウミガメに出会いに、そして屋久島の大自然を感じに。それをキッカケに大海原を生きるウミガメについて、彼らを取り巻く海の環境について学ぶ機会を設けました。
ウミガメがとても魅力的な生き物であることを感じた前半戦。後半は彼らの苦難を知りました。
砂浜の減少、温暖化による砂の温度上昇（卵の雌雄決定）、混獲、ゴミ（マイクロプラスチックなど）、光の問題…知る機会になりました。そして学びは続きます。この日はマイクロプラスチックに関して学びを深めてみました。プラスチックはとても身近なものです。私たちの生活に直結しているものです。ということは、ウミガメたちの置かれている環境は私たちの暮らしに直結しているのです。そのことを踏まえ、身近なプラスチック探しを始めました。
そして、大切なのは何故それが今、手元にあるのか…と自分を振り返る機会と、これからの未来をどう生きていきたいか…と考える機会。そして行動です。メンバーはメンバーなりに考えました。気づきを得ました。以下はその内容を紹介したいと思います。大切にしたことは、自分ごととして考えられること。このお話はあなた自身のことなのです。

→授業で読んだ。ウミガメの生態・美しさを感じるとともに、海・命の現状を学ぶ

身近なプラスチック探しをしてみる↓

私たちの身近なプラスチック　～知る、気づく、そして～
名前：[illegible]

	A あなたが見つけたプラスチックは何？	B なぜ、それを持っているの？（なぜ買ったの？）（なんで使っているの？）	C どうしたらプラを減らせるか？（又は無くせるのか？）※自分にできることは？
①	ボールペン（スケッチ）	かわいいから。	よく考えたら、まだ使えるのに、新しいものを買っていた。使い切ってから買うべき。
②	くし	身だしなみ。あったら便利。	何度買っても間に消えている。大切につかおう。
③	服	学校の行事で買わされた。強制的に。	3年間、毎年買い直すのがはなし。もっと、頭のいい方法があればな…

●Aについて➡あなたの身近なプラスチックを見つけて気づいたことは？
無くても生きていける。

●Bについて➡あなたがAのプラスチックを手にしている理由を（改めて）見て気づいたことは？
例：共通点、思ったこと　など
そこまで、大きな理由はなかった。

●これからの未来に願うことは？
うみがめちゃん、元気に生きて
他の生き物も生きたいように生きれたらな。

私たちの身近なプラスチック　～知る、気づく、そして～
名前：鈴木晟人

	A あなたが見つけたプラスチックは何？	B なぜ、それを持っているの？（なぜ買ったの？）（なんで使っているの？）	C どうしたらプラを減らせるか？（又は無くせるのか？）※自分にできることは？
①	上の服	やすかったから	ぬのの服を→する
②	すいとうのふた	こぼれるから かるいから	鉄せいをつかう
③	スマホフィルム	やすかったから	ガラスにする

●Aについて➡あなたの身近なプラスチックを見つけて気づいたことは？
ぜんぶやすいかったった

●Bについて➡あなたがAのプラスチックを手にしている理由を（改めて）見て気づいたことは？
例：共通点、思ったこと　など
やすいでリゆうとしていた

●これからの未来に願うことは？
人間と他の生き物が共生するせかい

私たちの身近なプラスチック　～知る、気づく、そして～
名前：髙橋 希広

	A あなたが見つけたプラスチックは何？	B なぜ、それを持っているの？（なぜ買ったの？）（なんで使っているの？）	C どうしたらプラを減らせるか？（又は無くせるのか？）※自分にできることは？
①	ボールペン	勉強につかうため。	べつに筆でいいんじゃね？ もしくは鉛筆のほうプラはりなそう！
②	はさみの持ち手	紙と髪を切るため	大切につかえば捨てずに済みそう！
③	スマホカバー	友だちにすすめられてついい…	木製のものを買えたら買うし、なかったら作る。

●Aについて➡あなたの身近なプラスチックを見つけて気づいたことは？
べつになしでもいけそうなものばかりだった。
たとえばはさみの持ち手は木でもいけそうだし、最悪なしでもいけそう。

●Bについて➡あなたがAのプラスチックを手にしている理由を（改めて）見て気づいたことは？
例：共通点、思ったこと　など
上の2つは実用性を重視した理由だったが、最後の一つは、ただ単におしに負けただけだった。自分で必要かどうか立ち止まって考えたらちょっとは減らせそう。

●これからの未来に願うことは？
やっぱり、いくら分解できるプラスチックと聞いても、どこか不信感がある。だから極力プラスチックを出さない社会、プラスチックを使う必要がない未来がいいなと思う

↖生徒の思い、お読みください

３年・名倉：私は買い物が好きで物をたくさん買った時、すごく満足感でいっぱいになる。でもその満足はずっと続かなくて、でもGEで感じる達成感と満足感はずっと消えないし、次に繋がる感じがする。こういうことで感じられる嬉しさが豊かさって呼ぶのかな。

２年・小野寺：不便をもっと楽しんで、その分自然を知る人間を生きたい。

２年・熊谷：正直、今回自分の持ち物を調べてみてびっくりしている。生活していてプラは当たり前だから気にはならなかったけど、今日探してみたら、そこそこあって怖いとびっくりしています。

３年・竹谷：海のゴミ問題とかで、動画を見た時、こんなにゴミが浮いていたんだとびっくりした。環境を良くしたいなら気を付けるだけじゃなくて、自分で行動を起こさなくちゃいけないと思った。

３年・小峰：早く環境汚染が改善されてほしです。今、環境汚染は深刻な問題となっているので、多くの人が協力して環境のために何かできるといいなと思いました。

この学びを経て、7名のメンバーが屋久島へ旅立ちました。そこではウミガメのこと、海のこと、人の生き様を目の当たりにすることになります。そして帰ってきて感じたことを残ったメンバーに報告してくれました。次号、その内容をじっくりと報告したいと思います。お楽しみに！

編集後記（さ）
あっという間の一学期でした。その間、活動の節々で三年生が中心に準備・活動フォロー・片付けと、自らの頭で考え、動いてくれて、本当に助けられました。その姿は責任感や使命感だけではなく、とても自然体であり、「皆でやれば、皆が気持ち良く過ごせるでしょ」と彼らの心の声が聞こえてくるようでした。誰に押し付けられることもなく、人を思い、自らも楽しみを持ち過ごせる時間。温かな時間です。そんな三年生と過ごす中でいつの間にか二年生がその思いに呼応したのか、気持ち良く動いてくれました。正直に語ると活動の準備と片付けは大人数のGEでは大変だなと思うこともあります。安全に過ごせるよう、常に緊張しながらのこともあります。そんな中での二，三年生の姿は「ありがとう」という気持ちしかありません。活動の最終責任を持つのはスタッフである私たちですが、活動の質を高めていくのはそこにいる全ての人々の力であることは間違いないです。経験者の生徒が前向きに、積極的に過ごす中で、初めての生徒もいつの間にか前向きに活動に向き合っていきます。心の響き合いがそこにはあったのです。三年目の学びの生徒が多い今年度GE。彼らの姿が二学期以降のGEの中身を更に充実させてくれうると思います。楽しみな未来です。彼らの姿を見て、大切なことを再確認しました。ただ活動するのではなく、皆の思いを大切にし、互いに心を通わせながら活動していきたい。これは、地球の未来にも繋がることですよね。きっと。